

## 茨城県つくば市 自立援助ホーム『ハレルヤ・ファミリー』設立の経緯

クリスチヤンである私と主人は、今から20年前、プロテスタント教会の Youth の担当牧師をしていた。ある時 1 本の電話が入った。水戸でマネキンごと洋服を盗んで捕まった少年たちがいるが、彼らを教会に連れて行くから更生させてくれないか…という依頼だった。彼らに会ってみると H 君は母子家庭で、家には父親の違う兄弟が 8 人いて母親が疲れ果てていた。もう一人の Y 君は父子家庭で、後で分かった事だが、その子の頭や身体には父親に虐待された傷跡が無数にあり、その時も父親におびえながらも悪い仲間とつるんで生活していた。

とりあえず、私たちは毎週彼らと食事をしながらひたすら彼らの話しを聞いた。話してみると彼らは実に素直で、笑顔を見せてくれることが多くなった。その後、H 君は母親や兄弟たちを教会に連れてくるようになり、Y 君は友達を続々と連れてくるようになった。あれよあれよという間にその数は数十人に膨れ上がり、教会には沢山のいわゆる不良たちが集うようになった。みんな心が飢え渴いていて本物の愛を求めていた。彼らは♪君は愛される為に生まれた…という贊美歌が大好きで、大声で肩を抱き合いながら涙を流して歌った。万引きを繰り返していた子が盗みをやめ、平気で売春していた子が自分を大事にするようになった。彼らはありのままの自分を受け入れてくれる存在を求めていた。皆悪い事をしているのは百も承知である。それでも悪い事を繰り返すのは、こんな自分でも認めてくれて、赦してくれて、愛してくれる、そんな大人に会いたかったのである。彼らは互いの痛み苦しみを共有できる仲間と居場所が出来た事を喜び、少しずつ変えられていった。

その頃、教会に保護観察官に連れられて一人の男性がやって来た。その人は銃刀法違反で留置され、保護観察が付いて出所してきた人だった。主人は、NPO 法人マナーズを立ち上げてから始めた廃品回収の仕事を彼に教えた。彼には 15 才の息子 R 君がいた。母親が R 君を出産して間もなく亡くなった為に、父親は R 君を乳児院→養護施設→自宅を行ったり来たりさせていた為かこの親子はしょっちゅうぶつかっていた。主人は見かねて R 君を我が家で預かる事にした。

その一連の様子をずっと見ていた大学生の青年がいた。彼は我が家に住んで、R 君の面倒を見たいと手を挙げてくれた。その事で、私たちはその大学生の父親と会った。私たちが今までやってきた事を彼に話すうちに彼の顔が輝いてきた。彼は、かつて厚労省で自立援助ホームの担当をしていて、自身も里親支援をしておられる方だった。「是非、正式に自立援助ホームを立ち上げて大勢の困っているこども達を助けて下さい」彼は私たちの背中を押してくださった。

2013 年 4 月、自立援助ホーム「ハレルヤ・ファミリー」がスタートした。それまでは主人と二人三脚でやってきたが、ここに新しい職員が仲間として加わってくれた。そして、児

童相談所を通して子どもたちが次々とやって来た。

ある時、K君が養護施設からホームにやって来た。K君が養護施設を出たことで、施設内でK君から性被害を受けたと訴える子たちが次々と現れた。K君はホームに来て僅か3カ月で少年院送致となった。私たち職員は毎月K君の面会を行った。事情があってホームに戻って来る事がかなわなかった為、私たちは彼が住み込みで働く職場を見つけて、彼は出院後、そこで新しい生活を始めた。途中躊躇事も多々あったが現在26歳になったK君は社会人として立派に働いている。

2017年6月、前理事長(主人)が天に召された。彼のポリシーは<愛し続けること><決して諦めないこと>である。私が理事長を引き継いでもこのポリシーは変わることはない。

この10年で20数名の卒業生が新しい人生の航海を始めている。ホームにいるうちに明確な目標を見つけて、必要な資格を取得して東京でSEをやっている青年、自分と同じような境遇の子どもたちの居場所を作りたいと福祉系の大学に入学した青年がいる反面、仕事が続かず生活保護を受給して退所して何年経っても引きこもっている子や、離婚して全てを失ってやっとこれから自活しようとしている青年もいる。この青年は離婚してからホストを辞めた。パンパンに太った身体が少しスリムになって、目にも生気が戻って来た。今、彼はラーメン屋で働きながら借金を返しつつ生活を立て直している。先日、彼はヒヨイとやってきて仕事の愚痴をこぼしてスッキリして帰っていった。

ホームには職員との関係が構築できないまま2年前に退所していったO君がいる。私たち職員はLINEしても既読も付かない彼の事をいつも気にかけていた。O君が、唯一退所してからも連絡を取っていたH君から「O君が大変だ~」とSOSが入った。彼はさよった挙句立川でホームレスになっていた。ホーム長は夜中、立川に飛んで行ってO君をつぶばに連れて帰りネットカフェで休ませた。翌日O君に再会すると、彼は初めて心を開いて自分が2年間どんな修羅場を経て来たかを話してくれた。彼は今、自立準備ホームに落ち着いて生活を立て直し始めたところである。

2024年5月、女子ホーム「グレイス・ファミリー」が新たに開所した。<愛し続けること><決して諦めないこと>このポリシーを掲げてスタートしたこのホームには既に4名の子どもたちが来て新しい歩みを始めている。

私たちはこの働きに誇りを持っている。使命感を持って立っている職員一人ひとりは子どもたちによって研がれ、更に磨かれている。この先の10年、更に神様がどんな素晴らしい事を備えてくださるか楽しみである。

NPO法人マナーズ  
理事長 宅間佳代子

